

まちぴあ

身近なつながりに出会おう

春号



TAKE FREE
無料

特集

「まちぴあから
『まちづくり』始めませんか?」

寄稿

宇都宮市長 佐藤栄一氏

「宇都宮市まちづくりセンター開設に寄せて」

ほっとねっと

篠井地域内交通「篠井はるな号」

まちぴあ登録団体紹介

マロニエマジック倶楽部／寺子屋いっぽ

まちづくり言いたい放題

「まちづくり」とは(1)

まちぴあから 「まちづくり」 始めませんか？

まちぴあの目標
1

新しい仲間たちは すぐとなりにいる

宇都宮市では、様々な団体が活動しています。サークルのように共通の目的を持って活動する団体や、自治会のように地域で活動する団体。そして同じ地域には学校、行政、企業などの組織も……。

ですが、これらの団体が枠を超えて集つ場所は今までありませんでした。個々では解決できなかつた問題も、新しい出会いによって展望が開けることはないでしょうか？

例えば、地区の子ども会に、「子どもが集まらない」という悩みがありますとします。そんな時、子ども

2012年1月4日、「宇都宮市まちづくりセンターまちぴあ」が開館しました。前身である「宇都宮市民活動サポートセンター」での約9年間の実績をもとに、みんなで楽しく真剣に、地域の活動について考えてていきます。

まちぴあが目指すまちづくり

センター長 安藤 正知

まちづくりとは、より良いまちを目指して市民が自ら行動することです。でも、「より良いまち」のイメージはそこに関わる「市民」によって変わっていきます。

市民活動団体や地域組織、企業、大学などさまざまな「市民」が、独自の「良いまち」実現に向けて活動することはとても大切です。しかし時には、「市民」同士がお互いの思いを分かち合い、「より良いまち」を共感することも、これからまちづくりに必要だと考えます。

まちぴあは、このような多様な「市民」によるまちづくりを支援するために、3つの柱に取り組みます。



疑問は「きつかけ」のもと

普段の生活の中で、「バスの本数はもっと増えないか?」「快適に散歩ができる新しい場所はないか?」と思っている方はいませんか。それらの考えは、あなただけでなく、地域全体に役立つ活動の「きっかけ」になるかもしれません。

思いを実現させるには、



過去の講座の様子

地域の現状や活動が与える変化などを調べ上げ、みんなで実行する力が大切です。当センターでは、これらの方を高める講座を計画中です。

突きぬけるヒトビトを育てる

まちづくり活動に深く長く関わっていると、活動の幅が増えたり範囲が広がったりします。すると、必要な資金も増え、運営面が複雑になり、更に難しい問題も出てきます。

より高い目標を目指す方々への支援の一つとして、



交流会にて



貸オフィスでのひとコマ

けましたが、多くの市民が積極的に寄付や物資提供、被災者宅の片付けなど、様々な支援活動に参加されました。

震災から約1年が経過した現在においても、被災地や原発事故の避難者に対する支援が続けられ、熱意を持って活動に取り組む皆様に対し、人間力の高さを大変強く感じているところあります。

さて、本市では、地域活動団体や非営利活動団体、企業・行政が適切な役割分担のもと、安全安心なまちづくりなど公共的課題の解決に主体的・自立的に取り組む社会をつくるため、市民の住宅が損壊するなど大きな被害を受けた御協力をいたいた皆様に心より感謝を申し上げます。

昨年の3月11日に発生しました東日本大震災では、本市でも約1万7千棟

2012年の年明けとともに、まちづくりセンター「まちびあ」のオープンを迎えることができました。開設に当たり御協力をいたいた皆様に心より感謝を申し上げます。

協働のまちづくりを推進しております。ライフスタイルの多様化や少子高齢化の進行など、社会環境の大きな変化が続く中、様々な課題に的確に対応し、本市が将来に向け持続的に発展していくためには、各主体の力を最大限に活かすとともに、交流・連携を促進することが不可欠であると考えております。

こうした中、より一層市民協働を推進するため、各主体間における連携体制構築のための情報や交流機会の提供、ボランティア団体・NPO法人等の組織基盤強化のための貸オフィスの

設置など、様々な機能を備えたまちづくりの拠点として「まちびあ」を開設いたしました。指定管理者であるNPO法人宇都宮まちづくり市民工房を中心、多くの人が集い、まちづくりの新たな可能性を発信する施設として大きく成長していくことを期待しております。

「まちびあ」において、今まで以上に活発なまちづくり活動が展開されますよう、施設機能を十分に發揮し、利用しやすい施設づくりに努めてまいりますので、皆様の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

まず初めに当センターではオフィスの貸出を始めました。人が集まりやすい場所を用意することで社会的信用を高め、成長中の団体の発展と自立を応援します。

宇都宮市まちづくりセンター 開設に寄せて



宇都宮市長
佐藤 栄一

まちづくり活動仲間が目もすもの

ほつとやつと

No.1

篠井地域内交通「篠井はるな号」

宇都宮市は、平成18年宇都宮市生活交通確保プランを策定しました。そこには、安心して移動できる手段の確保は地域の活性化につながる、との思いがあります。現在宇都宮市内で、住民が中心となって生まれた地域内交通は6カ所になります。今回の特集では、その中で6番目にスタートした篠井地区的「篠井はるな号」をご紹介します。



「住民自ら考える」

「お年寄りにとっては、バス停に行くのも一苦労なんだよね」。篠井地域内交通運営協議会の会長を務める沼尾さんがお話し下さいました。「この地区は、高齢化が進む一方でバスの利用者が減り、運行本数も少なくなってしまった。その結果、移動は

自家用車に頼るばかりだけど、運転に不安を抱える高齢者も多い。まさに交通不便地域だよ。でも、何とかしてくれと行政に頼むだけではダメ。住民自ら何とかしないと解決しない」。

「地域が動く」

市長とのまちづくり懇談会の後、地域が動くことが大切だと感じた沼尾会長は、平成20年10月にまず住民アンケートを取りました。そして、アンケート結果について住民同士が話し合う機会を設け、地域内交通の必要性を共有しました。そこから運営組織を立ち上げ、運行計画案を作り、住民自らが住民に説明して意見を交換し、実現に向けて一歩ずつ進んでいきました。そして、3年後の平成23年11月3日、篠井地域内交通「篠井はるな号」がスタートしたのです。

住民の想いをのせた「篠井はるな号」は、デマンド（予約）方式と言われる乗合タクシーで、一日10便が利用者の自宅と商業施

設や医療機関など31の目的地を結んでいます。料金は1回300円（子ども150円、未就学児無料）、前もって利用希望を運行者に電話しておくと、他の利用者の希望と調整して、自宅玄関から目的地まで乗せてくれます。

「これからのはるな号」

「運転手は、ホームヘルパー2級取得者にお願いしている。自宅に迎えに行くとき、ちょっとした介助が必要な人も多いからね。住民がとことん利用しやすい生活交通にしたい。もちろん採算性も考慮しないといけないが、まずは地域の方に利用してもらいうることが先決」。沼尾会長はさうに、はるな号のこれからについて次のようにお話をされました。「より行きたい場所に行けるよう、運行ルートの見直しが必要になります。住民の声を大事にして改善していくたい。ゆくゆくは地域外の目的地ともつなげていればいいね」。



取材後記

公共交通は行政が担うべきもの、と考える人も少なくないと思います。しかし、大切なのは利用者にとって使いやすいことです。地域住民が知恵と力を出し合い、地域の足を自分たちで実現した「篠井はるな号」は輝いて見えていました。
(安藤・岩井)

篠井地域内交通運営協議会
宇都宮市下小池町466-1
☎ 028-669-2515
篠井地区市民センター内



「変化が街に残すもの」

ただ黙つて佇み続ける建物から何かを感じることはないでしょつか。

『ファインフィールド』と名付けられた南宇都宮にある大谷石蔵群は、あまりにもスピード一気に物事が進んでい

く時代の中で、またひと味違ったテンポで変化を楽しんでいるような感覚を与えてくれます。この一角でダンススタジオ「be off」を構えているのがダンサーの妻木律子さん。彼女が活動拠点としてのスタジオを探し始めたところ、偶然にもこの石蔵を紹介されたそうです。

「闇と光が交錯するこの空間に立つた瞬間、即決した。経済的には不安はあつたけど。」

「何もないことが、クリエイティブの源泉」という彼女の言葉通り、スタジオ内部は至つてシンプル。そこでは、ダンスに限定されない様々なワークショップも行われ、4月14日から開催される

大谷石蔵スタジオ
「be off」

代表 妻木律子
〒320-0838
宇都宮市吉野 1-7-10
(南宇都宮駅 徒歩1分)
TEL.028-601-2652
FAX.028-601-2651
<http://www.beoff.org>



まけないぞうキャラバンinまちびあの様子



まけないぞう

まけないぞう
1体 400円
頭のリボンの色で
製作者がわかります
入手方法：
とちぎボランティア
ネットワーク
まけないぞう係
TEL.028-627-5590

「地域ぐるみの教育」

～地域は子どもたちの大先生～



陽光宮っこステーションの様子

「自分に」できることであれば、地域・学校からの頼まれ事は基本的に断りません。だって、廻り回って自分達もお世話になるのだから

「富っこ」は、平成19年から始
ターやを務める岡本麗子さん。
こステーションの「一アイネー
宇都宮市立陽光小学校・宮つ
ら」そう語つて下さったのは、

す。岡本さんの地域と学校を結ぶ「ツ」は“自ら出向く”こと。地域の年中行事や各地域の市民活動センターなどに足繁く通り、今では70名を超える地域の方々が日替りで子ども達への教育指導・交流に協力して下さるようになりました。その地域の力が宮っこステーションでも異色の週5回開催を実現しています。

岡木 麗子さん

宇都宮市立陽光小学校
放課後子ども教室
宮っこステーション
コーディネーター
趣味：
韓流ドラマ
(時代物)鑑賞



わたしたち、こんな活動しています。

宇都宮市まちづくりセンター
まちびあの登録団体紹介



学ぶつて楽しいみんなで始めの一歩

まちびあの一室で、「わかなない」という子どもたちのにぎやかな声が響きます。「寺子屋いっぽ」の学習会です。同団体は、ひとり親家庭の支援を目的に、平成20年7月にスタートしました。子どもたちの学習は、ボランティアで集まつた先生たちが1対1で向かい合います。子どもたちは自分で

用意した教材に取り組み、別室で親たちは日常生活の問題や支援サービスの状況などを話し合い、情報交換をしていま

す。昨年4月から活動充実のため、約半年の休会を経ました。再開後は意欲のある親子と先生がより毎回顔を合わせ、一体感のある雰囲気が作られつ

つあります。熱心な先生たちのサポートにより、子どもたちは疑問が解けて学習の面白さを感じます。休憩中も夢中で先生とお話をしています。活動をライフワークの1つとする代表の石原さんは、次のように意気込みを語ります。「今はひとり親家庭が増えつつあります。季節の行事も待ち遠しい!

する皆さんのが様々なことを学べる、居心地のよい場にしていきたい。」



【団体名】寺子屋いっぽ

【学習会】毎月第2・4日曜日 13:00~16:00

宇都宮市まちづくりセンターまちびあ 研修室

【連絡先】TEL. 028-661-2778 (まちづくりセンターが仲介)



新ネタ披露・展開にご注目!!

笑顔こそ。パワーの源

「マロニエマジック倶楽部」は、マジック講習会での出会いがきっかけとなり、仲間作りと互いの技向上のため活動を始めた。現在のメンバーは7名です。

普段の自主練習会では、新ネタの披露や仲間の指導、何回も繰り返し練習するメンバーの姿があり、楽しい雰囲気の中

にも余念がなく、イメージトレーニングは欠かせません。「お客様の喜んでいる姿は私たちの大

福祉施設・保育園など月7回程、前日の予行練習にも余念がなく、イメージトレーニングは欠かせません。「お客様の喜んでいる姿は私たちの大

「マロニエマジック倶楽部」のマジックは、いつどんなときでも、観客に夢とパワーを与えてくれる楽しみです。



【団体名】マロニエマジック倶楽部

【練習日等】毎週金曜 10:00~12:00

宇都宮市まちづくりセンターまちびあ 研修室

【連絡先】TEL. 028-667-0328 E-mail: s.katue@cosmos.ocn.ne.jp

にも真剣さが伝わってきます。眼前に展開されるスピード感と驚異は、まさにマジックの醍醐味といふ感じです。誰もが小さな子どものように胸が高鳴り、目が釘付けになるでしょう。

主な活動場所は、老人福祉施設・保育園など月7回程。前日の予行練習にも余念がなく、イメージトレーニングは欠かせません。「お客様の喜んでいる姿は私たちの大

きな活力になり、お互いにパワーを与え合つていると感じる」とメンバーの一人は語ります。

また、マジックに使用する道具を自分で製作するメンバーもいます。市民の道具をじっくり研究し仕組みを考え、思考錯誤で作り上げるのも別の楽しみです。

「マロニエマジック倶楽部」のマジックは、いつどんなときでも、観客に夢とパワーを与えてくれる楽しみです。

と実感しています。



陣内先生の

言いたい放題

まちづくり

1

「まちづくり」とは（1）

この情報紙は宇都宮市まちづくりセンターが発行しています。本センターの前身である宇都宮市民活動サポートセンター発行時から、このシリーズ「まちづくり」を愛する人々なのです。宇都宮を愛する人が増えれば増えるほど、さらに素敵な宇都宮にならいくことは間違いません。

まちづくりとは、以下とおりです。
よくしていくことであり、それに関わる行為である。担い手の中心は市民（であるべき）であり、支え手としての行政がある。

こういうことを述べると、「それは理想論でしかない」と切り捨てる方が、地域にも行政にも多くいらっしゃることは誠に残念なことです。「行政依存+行政主導型まちづくり」の発想から抜け出せないのでは。ある意味、一昔前の「成長時代のまちづくり」は幻影を今も希求している愚か者と言つてもよいでしょう。そのようなまちづくりが全国各地で進められ、では、まちづくりってそもそも何でしょうか？ その定義はいろいろあります。立場によつて見解も様々です。「これが正解だ！」と決めつけることはできないと感じています。一人ひとりが、「私が考るまちづくり論」を持つていることが大切なのは、と考えています。ちなみに、私が考

るまちづくりは、その「まち」を愛する心の美しい人々の手になるとき、金をかけたよりも美しい「まち」をつくる。それは人の心を美しくするからだ。

「まちづくり」にはお金もいる。技術もいる。チエモいる。組織や制度も必要である。だが、そのベースに、まちを愛する人々の美しい心がなければ、見かけ上の「まちづくり」に終わってしまう。未来の夢をみつづく人々の美しい心が、「まちづくり」の花を咲かせ、実を結ばせるだろう。

（引用
11頁）

まちづくりとは、以下のとおりです。

著『まちづくりの発想』（一九八七年）の中で、以下の名文を遺されています。宇都宮のまちづくりを担つていくのは、この「まち」を愛する人々なのです。宇都宮を愛する人が増えれば増えるほど、さらに素

敵な宇都宮にならいくことは間違いません。

書籍紹介
陣内先生が推奨する
この一冊！



田村 明 著
「まちづくりの発想」
岩波書店 1987年発行



陣内 雄次
プロフィール

2007年、宇都宮大学教育学部教授。NPO法人宇都宮まちづくり市民工房の理事長としてまちづくりの実践にも関わるとともに、コミュニティカフェ「ソノツギ」を運営している。著書に「コミュニティ・カフェと市民育ち」など。

このコーナーでは市民のみなさん、市民活動関係者、行政関係者などからのご意見、ご感想をお待ちしています。紙面上での意見交換へと発展することを期待します。ご意見・ご感想はまちびあ広報部へ。

まち
書
庫
か
ら

PICK UP!

単なるB級グルメブームと侮ることなかれ！
町おこしには協働のコツが満載

今や、宇都宮といえば餃子。でも、ほんの10年ほど前まで宇都宮市民に「餃子の街」であるという認識はありませんでした。いつから宇都宮は「餃子の街」になったのか。その疑問に答えてくれるのが、今回紹介する本「ひと皿200円の町おこし」です。

この「餃子で町おこし」の始まりが餃子の年間購入額が全国1位であることに市職員が注目したのがきっかけというのは有名な話で、官主導型の町おこしの成功例と言われています。しかし、実際は“官”

である行政側、“民”である餃子店主ら、双方の職を超えたボランティア精神と熱意による地道な活動が、徐々に大きなうねりとなつていった様子が伺えます。また、モチベーションの持続化やそれぞれの役割分担を明確化することなど、官民協働の成功的秘訣が実例と共に記されています。

ここまでの発展における糸余曲折にも細かく触れており、これから町おこしを考えている方には良いバイブルになると思います。



五十嵐幸子著
「秘訣は官民一体
ひと皿200円の町おこし
宇都宮餃子はなぜ日本一になったか」
小学館 2009年発行

まちびあからのお知らせ

イベント情報

ときめいて今！この街が好き フェスタmy宇都宮 2012

4月1日の「宇都宮市民の日」を記念するイベント「フェスタmy宇都宮 2012」。今年も、5月に中心市街地で開催されます。市民の皆さんのがごろの活動成果の発表を通じ、コミュニケーションを深めるとともに、宇都宮の良さ、素晴らしいを認識・再発見できる場です。屋

台村、ステージ、ストリートパフォーマンスやパントマイムなど楽しい催し物が繰り広げられます。

まちびあはオリオン通りに「まちびあストリート」を設置します。30団体のNPO・市民活動団体が参加しますので、是非遊びに来て下さい!!

【日 時】 2012年5月27日(日) 10:00~15:00

【会 場】 ・宇都宮城址公園 ・オリオンスクエア ・オリオン通り

平成24年度宇都宮市市民活動助成事業助成団体募集

宇都宮市では、ボランティア団体やNPO法人などの活動を活発にし、全市的に広げていくため、これらの活動を応援する「市民活動助成基金」を設置しています。

この基金を活用し、市民の自主的で公益的な非営利活動の事業に財政的な助成を行い、みなさんの活動を応援します。

「新規事業をはじめたい!」「これまでの事業を拡大したい!」という市民活動団体を募集します。

【申請受付期間】 平成24年3月1日(木)~4月13日(金)
必着 【提出方法】 市役所10階みんなでまちづくり課又

は宇都宮市まちづくりセンターまちびあ窓口に直接、申請してください。(郵送等での応募不可)

【問い合わせ先】 宇都宮市役所

みんなでまちづくり課 市民活動グループ

〒320-8540 宇都宮市旭1-1-5

TEL.028-632-2886 FAX.028-632-3268

URL: <http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/>

E-mail: u2207@city.utsunomiya.tochigi.jp

※トップページ▶(分野別で探す) 市民協働・コミュニティ▶ボランティア・NPO

まちびあ最新情報にアクセス！ <http://www.u-machipia.org>

まちびあ

まちびあ新規登録団体

公益社団法人 認知症の人と家族の会 栃木県支部
認知症に関するつどい、電話相談、講演会などで、地域への啓蒙活動と支援を行う

宇都宮市今泉地区 青少年育成協議会

今泉地域における青少年の指導・育成・保護に関する具体的な施策の実施

ふらっと727
老若男女問わず集える、地域の中での居場所作り

寺子屋

東日本大震災において宇都宮市に避難されてこられた児童、共働き家庭の児童、放課後留守家庭児童を対象とした放課後の学習支援

特定非営利活動法人 とちぎユースサポーターズネットワーク
若者に対して社会参加や社会貢献にチャレンジする事業を企画

一般社団法人 栃木県中小企業診断士会

中小企業診断士の連携と資質の向上・非営利組織に対する経営支援

フレンド鼓笛ちびっこ隊
幼児・園児で構成する鼓笛サークル

27期山歩会

トレッキング活動を通じて健康増進と自然環境保護に貢献

うつのみや大道芸フェスティバル実行委員会
うつのみや大道芸フェスティバルの運営

一般社団法人 地域サポートダーナクの会

高齢者、障がい者の働く場所作り

デックタイ たんぽば教室
在日タイ人の子どもたちへの学習指導

(2012年1月31日現在 登録団体数 597団体)

市民活動助成基金

ご協力ありがとうございます

●スナックフード・サービス

●八興

●フケタ設計

●音訳ボランティアグループ風

●泰和工業

●なかよし善行ネットワーク

●鬼怒川空調

●足利銀行 宇都宮市役所支店

●三信電工

(順不同・敬称略)

市民活動助成基金とは

ボランティアやNPOの活動を財政的に支援する「市民活動助成金」の財源で、企業や市民の皆様からの寄付で支えられています。

寄付を通して社会貢献活動に参加しませんか?

宇都宮市役所

みんなでまちづくり課 市民活動グループ

TEL.028-632-2886

URL: <http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/>

※トップページ▶(分野別で探す) 市民協働・コミュニティ▶ボランティア・NPO

メルマガ購読者募集中!!

鳥の目&虫の目 +まちびあ通信

鳥のような広い目で宇都宮全体を見ながら、虫のようにミクロな目で、地域のまちづくり活動をお伝えします。

登録はE-mail／窓口にて！

info@u-machipia.org

まちびあ

宇都宮市まちづくりセンター

(指定管理者：特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房)

〒321-0954 栃木県宇都宮市元今泉5丁目9-7

**TEL.028-661-2778 / 028-661-2779
FAX.028-689-2731**

E-mail: info@u-machipia.org URL: <http://www.u-machipia.org>

開館時間 午前9時から午後9時30分まで

休館日 年末年始(12月29日～翌年1月3日)
臨時休館(施設点検等)

JR宇都宮駅東口から徒歩15分 駐車場28台

